

### ●インクジェットプリンターでの白黒プリント

最近、インクジェットプリンターで白黒写真のプリントについての話題をよく耳にしますが、インクジェットプリンターで作品としての白黒写真を美しくプリントするのは、簡単なようで非常に難しく、高度な技術を必要とします。「インクジェットプリンターでの作品なんて…」と、思われるかもしれませんが、欧米ではれっきとした作品として認知され、高い値段で売られています。さらに、白黒プリントは写真の歴史とともに歩んできていますので、評価する側の目も非常に厳しく、豊かな階調再現や深みのある色合い(白黒プリントにも色味があります)、適切なコントラストなどが求められ、美しいプリントの基準は相当に高いものだといえます。そこで、今回はインクジェットプリンターでの白黒プリントについてお話させていただきます。

最も簡単な方法は、印刷する際にプリンタドライバの画面で「グレースケール印刷」、またはカラーの項目の「黒」を選択して印刷すれば白黒写真になります。これは、プリンターの黒インクだけを使ってプリントするのですが、これでは適切なコントラストと階調を再現できない上に白黒写真の色になりません。そもそも、プリンターの黒インクはカラー写真をプリントするときには補助的に使用するもので純粋な黒ではないのです。よって、白黒写真をプリントする場合でもカラーインク全てを使用することで階調とコントラスト、白黒の色を再現できます。次に簡単な方法は、『Photoshop』などの画像処理ソフトで「グレースケールモード」にする方法です。これは、画像のカラーデータ削除するのですが、これでも階調やコントラストは十分に再現できません。適切な方法は、カラーモードのまま「色相・彩度」の項目で「彩度」をゼロにする方法です。ただし、それだけでは前述の方法と同じで、さらにRGB各色の色調を調整することにより階調、コントラストを白黒フィルムで撮影して白黒印画紙にプリ

ントしたように再現できるのです。正規版の『Photoshop』を使用すれば「チャンネルミキサー」という機能で白黒にすれば、より精細に階調、コントラストを調整できます。さらに、画像ソフトに「調整レイヤー」と「レイヤーマスク」の機能があれば、覆い焼きや焼き込みといった暗室テクニックも施すことができます(カラー写真でも同じです)。

さて、画像処理ソフトで適切な白黒写真に調整できても、そのままプリントしてしまうと色が偏ってしまい(色転び)、白黒プリントの色になりません。一般的なカラープリンターの場合、テストプリントを繰り返しながら画像ソフト上で「色相」を調整してベストな色を作り出さないとはいけません。それでも、シャドウ部に緑色や赤味をおびたり、モニターでは識別できる階調が再現できていなかったりします。これはプリンターの仕様のせいで、通常のインク構成だけでは限界があるのです。そのため、カラーインクと黒インクの他にグレーやライトグレーなどのインクを採用したプリンターが存在します(エプソンの「PX-5500」やHP社の「フォトスマート8735」)。これらのインクはカラープリントにおいても階調をより豊かに再現します。その他に英国ライソン社の白黒専用インクを使用する方法もあります。4~6種類の濃度の違う黒インクだけで、エプソンやキャノンのプリンターに使用できる製品が用意されています。ただし、使用する前と使用後に元のカラーインクに戻すとき、専用のクリーニングカートリッジでプリンターのヘッド(ノズル)を清掃しなければなりません。

白黒写真をプリントする方法を簡単に書いてみましたが、重要なのは美しいプリントを見極める目が大事だと思います。そのためには、銀塩の白黒プリント暗室作業を実際に経験されると大いに役に立つのではないかと思います。

### ●白黒暗室技術講習

上記で「暗室作業を経験されては？」と、書いた行きがかり上、「デジタルニュース」ではありますが、超アナログな暗室技術講習のご案内をさせていただきます。通常、暗室レンタル(2時間 3,000円/超過1時間毎 1,000円)をご利用して頂いた方に2時間 3,000円(レンタル料とは別)にて実技指導を行なっていますが、新たに専門講習を始めさせていただきます。約3時間の中で基本講習と実技指導を行ないます。お一人から3名様までで随時、受け付けます(お客様と弊社の都合の合う時間)。費用は、お一人なら5,000円。2名様で一人4,000円。3名様なら一人3,000円です。暗室作業もなかなか面白いですよ～!